

山下てんせい

自由民主党神戸市議員団 市政報告 vol.18

市政に関するご意見はスマホカメラで QRコードを読み取っていただくと簡単です
メールフォームに直接つながります→



山下てんせい 検索

2022年6月27日、山下てんせい議員は一般質問を致しました。
今回は、その質疑応答と報告を致します。
なお今回はインフォグラフィックにも挑戦しております。

西区のまちづくりについて (工業)

① 山下 西区の産業構造の強みは優れた技術

を有する金属化学関連企業や食品工場、物流拠点、また大企業の研究施設などが集積する工業団地の存在が挙げられます。他方、^{*}昼夜間人口比率が100を下回っており、雇用の場を更に確保することが求められています。

そこで、ものづくりのサプライチェーンを構築し、新たな雇用を創出するとともに、企業創業や事業継承の機運を高める施策が必要と考えるがいかがでしょうか。

^{*}仕事や通学で出ていく人の方が多い

久元市長 西区はこれまで内陸部の産業団地の整備を進め、4団地 25,000人の雇用を創出してきた。また現在、神戸複合産業団地(押部谷)の隣接地に新たな産業団地の整備計画を進めている。一方昼間人口の増加を念頭に置いて、職住近接の促進や中小企業への振興支援とまちづくりの融合を考えなければならない。



② 山下 テクノ・ロディスティックパーク

における交通手段について、短時間労働等働き方が多様になっており、そのため従業者数は大幅に増加し、出退勤の時間も分散しています。そのため多くのマイカー通勤者による路上駐車が慢性的な課題となっておりますが、マイカー通勤者向けに十分な駐車場の確保や、公共交通機関のさらなる利用促進を図る施策が必要ではないでしょうか。

今西副市長 テクノ・ロディスティックパークにおける駐車場不足に対し、暫定的に処分用地を活用して、現在4か所で300台の駐車スペースを整備している。今後は処分用地以外の市有地を活用することも考える。同時に引き続きバス事業者への新規路線開設を働きかけるなど、鉄道やバスの利用促進も実施し、良好な働く場の提供に努めていく。

西区の工業について

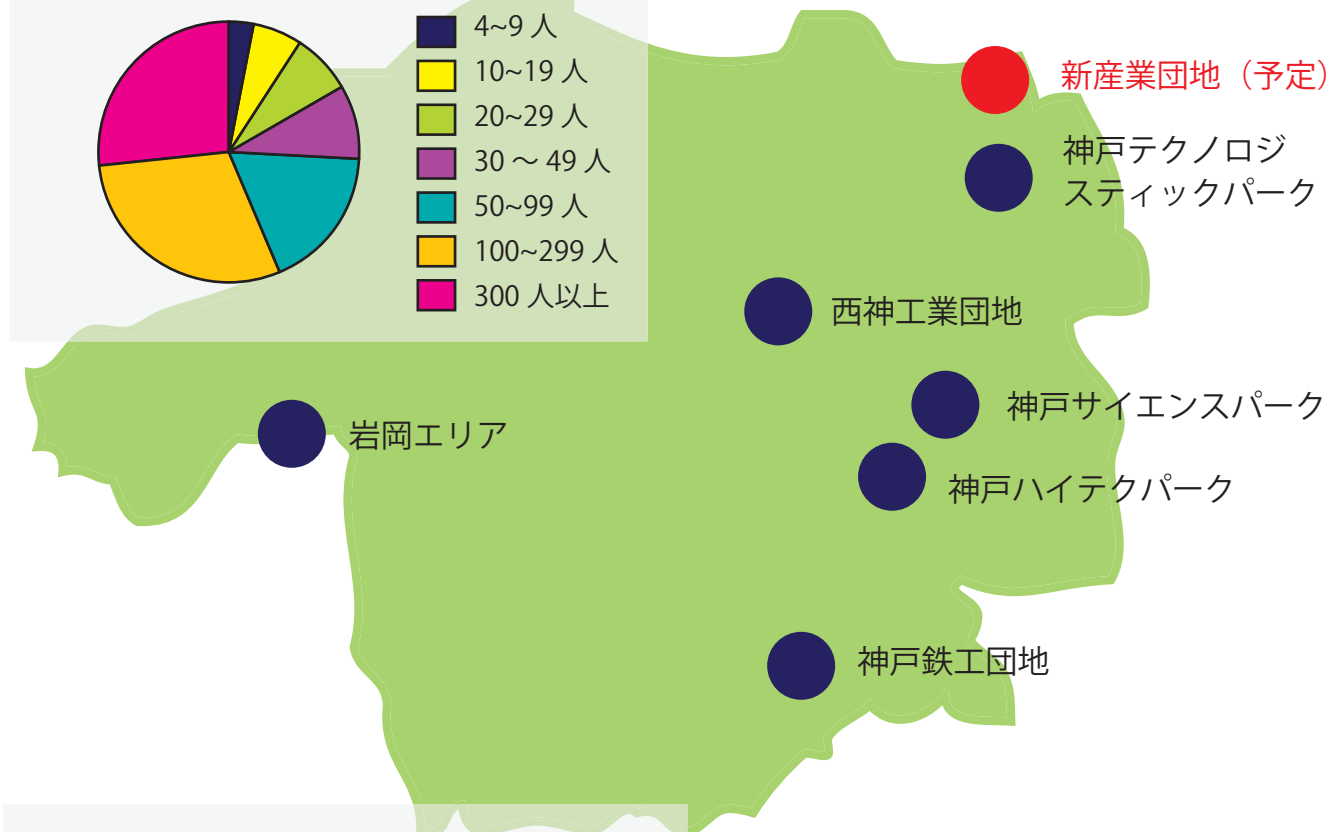
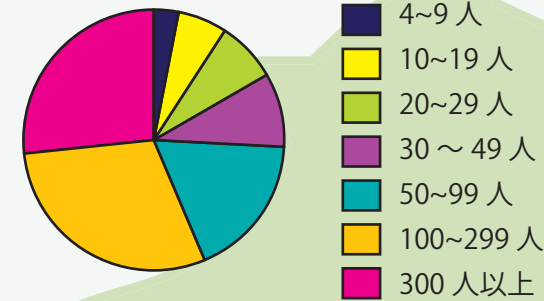
西区の工業データ (2020年) 工業統計調査

西区の昼夜間比率は 97.6%
西神ニュータウンの初期コンセプトが職住近接であったことを考えれば成功の部類と考えますが今後のことを考えればまだ伸び代はあると考えます

※昼夜間人口比率とは (昼間人口) ÷ (夜間人口) × 100

従業員数 22,607

※従業員 4人以上 【神戸市の 33.3% 1位】
1事業所当たりの従業者数 50.8人

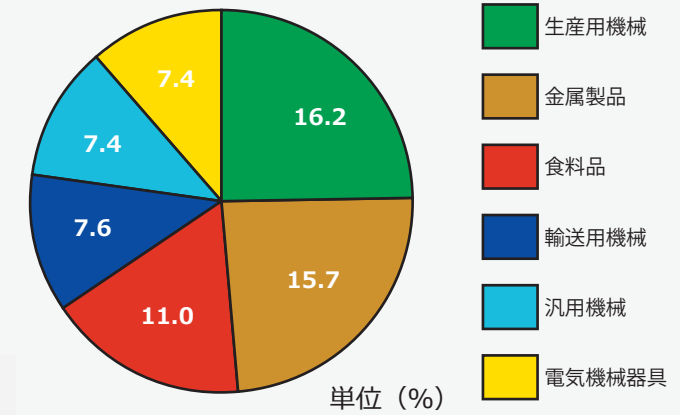


製造品出荷額 1兆3365億600万

※従業員 4人以上 【神戸市の 39.1% 1位】
1事業所当たりの製造品出荷額 30億300万円

事業所数 445

※従業員 4人以上 【神戸市の 31.9% 1位】



西区が次世代サプライチェーンの拠点となることが目標

- ・そのために必要な整備を促進
- ・中小企業が進出しやすい環境を

西区の農業について

① **山下** 農業の維持発展を図るためには担い手の確保・育成が重要な課題です。とりわけ**コメ農家の減少**に伴い、また中学校給食の全員喫食化をふまえた給食用米の供給体制について不安視する声があります。そこで、都心に居住し、別の仕事をしながら週末に農作業に従事する半農のワークスタイルを推進し、将来的な農業の担い手確保を進めるべきと考えますがいかがでしょうか。

今西副市長 本市では、移住・定住につなげるため、豊かな自然を生かした里山づくりを進めている。そのなかで、神戸市では 100 時間程度の短期研修で 1000 平米未満の小規模な農地を借りることができる神戸ネクストファーマー制度を創設した。本格的な就農のための知識や技術の習得や、将来の農業経営を見据えたフォローアップを行っており、農業にチャレンジしやすい環境づくりを進めることで将来の農業の担い手を確保していく。

② **山下** 神戸市は下水汚泥に含まれるリンを回収し、肥料資源として有効に活用する「**神戸ハーベストプロジェクト**」を進めています。化学肥料の原料のほとんどを輸入に頼る中、慢性的な肥料不足によるニーズの高まりが期待できますが、SDGs にも資する本取り組みをもっと拡大・推進するべきではないでしょうか。

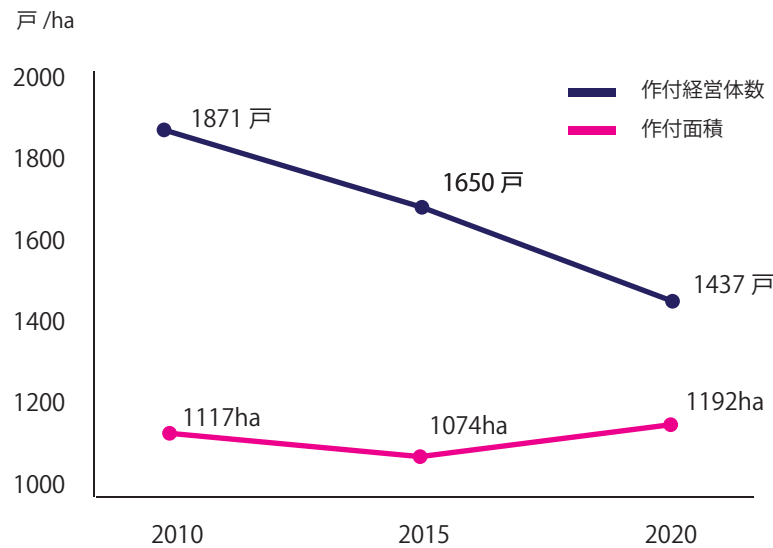
※神戸と福岡にしかありません

油井副市長 令和 3 年度は神戸再生リンを、施設の生産能力の 20%にあたる、25 トンを肥料メーカーに供給した。現在のところ、まだ生産能力に余裕があるので、まずは現プラントの最大生産能力である 130 トンの供給を目指し、その上でさらなる需要が見込まれる場合にはプラントの増設等も検討する。

コメ農家及びコメの作付面積

法人化した農業経営体

【西区 34】 北区 17 (神戸市全体 52)



作付面積は横ばいなのに
コメ農家は減っている!!

コメ農家は儲からないといいますが、**地産地消**による健康で安全な食生活が実現できる**西区ならではの**特徴は守るべきです。

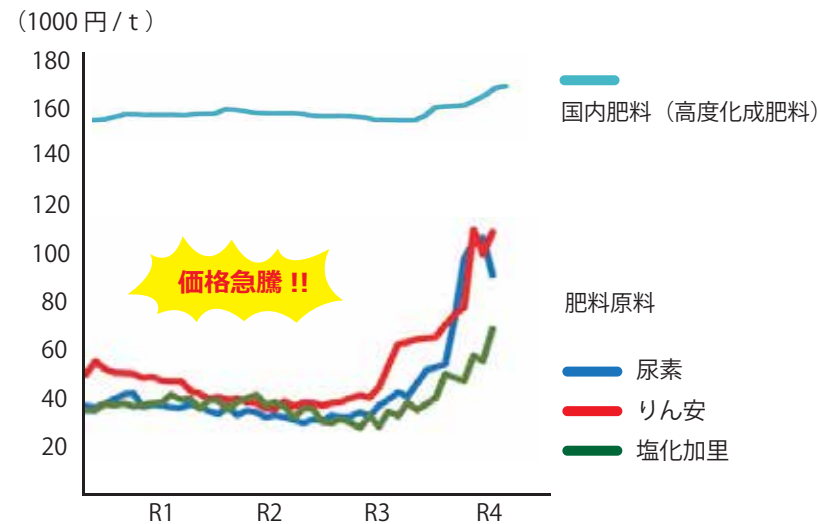
↓
・集落営農の活性化
・人材育成 など



肥料原料(尿素、りん酸アンモニウム、塩化カリウム)の輸入価格と国内肥料の小売価格の推移



▲神戸ハーベストプロジェクト視察の様子



この質疑のあと、久元市長は 8 月に国土交通省へ「下水汚泥由来の再生リン活用に係る提案・要望」を行いました。

また、片山さつき参議院議員のお力添えもあり、農林水産省へもつないでいただきました。政府は 10 月に取りまとめる総合経済政策で、肥料の国産化を進める方針です。

➔ **国家プロジェクトへ!**

③ **山下** 西区の強みである、イチジクをはじめ付加価値の高い製品の供給力を高めるため、販路拡大の支援など、販売力の強化に対する支援を行い、近郊農業の振興を図るべきと考えますがいかがでしょうか。

久元市長 イチジクについて、神戸市は県下最大の産地であり、その生産力の向上については JA 兵庫六甲と連携して進めている。一方販売力の強化については食材フェアや海外での試験販売、六次産業化の一環としてジャムの商品化などに取り組んでいる。

また消費拡大に向けては認知度の向上が必要であり、広報紙こうべや JA 主催のイベントを通して情報発信、販売促進につなげていくほか、イチジクを使ったスイーツの開発やブランディングには全国に発信する余地があると思う。

